



# いもち病、紋枯れ病に気を付けましょう

水稲栽培で6月以降から発生が多い病気に「いもち病」があります。また近年気温が上がっていることから「紋枯れ病」の発生もみられます。適切な防除を実施しましょう。



## Check 1 いもち病の症状

次の条件では特に注意！

- 気温22～26℃程度の低温曇り
- 曇雨天で多湿な状態が続く

### 対策

- 過繁茂だと発生しやすいため、基肥は適量を守りましょう。
- 田んぼに置いたままの余り苗はいもち病の発生源になるため、早めに処分します。
- 圃場を見回り、葉いもちの発生があれば農薬散布をしましょう。出穂期以降も雨が続く場合は、穂いもちの防除を検討しましょう。

## ●葉いもち



葉に症状が現れる。病原菌を持った稲わら・種もみ等が発生源となる。特に分けつ期～出穂前に発生が多い。まず葉に小斑点ができ、やがてふちが褐色で中が白い紡錘形の病斑ができる。

葉いもちが感染源



## ●穂いもち



穂首の感染部位

穂に症状が現れる。出穂後から発生する。特に穂首に感染すると被害が大きく、穂へ養水分が行きわたらず白穂になる。

## ●農薬の例

農薬名	効果	使用時期	使用量	希釈倍数	使用回数
コラトップ粒剤5	予防	<葉いもち> 初発10日前～初発時 <穂いもち> 出穂30～5日前	3～4kg /10a	—	2回以内
ブラシンフロアブル	予防治療	収穫7日前まで	60～150L /10a	1000倍	2回以内
ブラシン粉剤 DL	予防治療	収穫7日前まで	3～4kg /10a	—	4回以内

## Check 2 紋枯れ病の症状

前年の病原菌が越冬し、翌年の感染源となる。株元に暗緑色～灰白色で楕円形の病斑ができる。出穂後、気温の上昇とともに病斑も株の上側へ広がる。上側の葉に感染すると、枯れて収量が減ることもある。

次の条件では特に注意！

- 気温28～32℃程度の高温が続く
- 曇雨天で多湿な状態が続く

### 対策

- 過繁茂だと発生しやすいため、基肥は適量を守りましょう。
- 穂ばらみ期（出穂20日前～出穂頃）が防除適期です。株元を確認し、20株中3株以上に症状があれば農薬散布を検討しましょう。
- 収穫間際に病斑が目立ってくることもあります。株の上側に広がらないよう刈り遅れないようにしましょう。

## ●発病株の様子



## ●農薬の例

農薬名	使用時期	使用量	希釈倍数	使用回数
モンガリット粒剤	収穫30日前まで	3～4kg/10a	—	2回以内
バリダシン液剤	収穫14日前まで	60～150L/10a	1000倍	5回以内